

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	有田町立有田小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。若い教員が増えてきたので、校内研究を通して授業のスキルアップを目指していく。 ・校内研究において、児童用端末機器の文房化への足がかりとなる研修を行うことができた。今年度は、更なるスキルアップに取り組む。 ・PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいても肯定的な評価をしていただいた。来年度からも更なる発展を図っていく。 ・個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、校内研究をベースにした研修会で研鑽を深める。 ・「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解することができた。児童理解や児童支援となり、職員のスキルアップにつながっている。学校や児童に関わる危機の未然防止・早期発見のための貴重な会議となっているので続けていきたい。

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	① 校内研究における「自分の考えを広げ深める児童の育成」をベースに、個別最適化の指導スキルの向上を目指す。 ② 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で共有し、共通実践を組織的・継続的に行う。 ③ 地域と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童が自ら課題を設定し、解決に向けた考えの形成や対話による自他の承認の向上を個別最適化及び協働的の学習スタイルの中で目指す。 ○全職員が「個別最適な学び」と協働的な学び」を意識して授業を仕組み、授業デザイン力を磨く。	○全学級で授業研究会を実施する。 ○「課題解決のために自分から進んで考えて授業に取り組んでいる」と回答する児童を90%以上。	○自分の考えを広げ深めさせるために、思考を可視化する授業展開を行う。 ○全職員が、各グループ学年の授業研究に関わり、共通理解のもと授業研究会を行う。 ○短時間のICTスキルアップ研修会を実施する。	A	・気持ちメーターで自分の気持ちを見ることができると手立てをとった。 ・全担任が公開授業実施に向けて年間当初の計画通りに実施している。研究会には原則全職員参加している。	A	・「読む・漢字・計算などの基礎基本が身についているか」についていると回答した児童は、97%以上であった。保護者は66.7%であった。児童に実感をもたせる指導が校内研を中心として成果が出ている。 ・「課題解決のために自分から進んで問題を解こうとする」に「できるようになった」と回答した児童は、93%以上であった。12月までに全職員が共通理解のもと公開授業及び授業改善に取り組むことができた。	A	・授業内容を子ども達が理解しやすいように標準よく説明されていた。早く目標達成した子ども達はまた友達への手助けなどはとてもよかった。 ・高学年の学力向上は、やや課題があること対策で放課後にサポートの考えは素晴らしい。 ・授業中、タブレット、ノート、ワークシート、具体物が効果的に活用され、児童が興味をもって取り組みことで、学力向上につながっている。発表力、説明力、実験の場を増やしてほしい。	
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上。	●ふれあい道徳などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。	A	・授業参観での保護者の参加率は、ほぼ昨年度同様90%を超えている。 ・ふれあい道徳への教師の意識は高く、授業を通しての情操教育に力が入っている。このことは、全学年での花いっぱい運動にも反映されている。	A	・「学校生活は楽しいですか」に「たのしい」と回答した児童は95%以上だった。高学年ほど高かった。日頃から学年を超えて仲良く活動したり、遊んだりする姿が見られる。ただ、友だちへの言葉遣いが悪い場合がある。	A	・自分の身近な人を思いやる気持ちを養う事は、人生を長い目で見てとても大切な事です。自分に返ってくる事なので、是非強調して伝えてほしい。 ・縦割り班や全校児童の活動は、小規模校ならではの活動で、思いやりの心が育つことにつながる。
●いじめの早期発見、早期対応体制の充実		●人権・同和教育、道徳教育を充実し、「いじめ防止に努めた」と考える教職員を90%以上。	●Q-Uテストの結果をもとに、児童理解に努める。 ●個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	A	・Q-U研修会を夏休みに全職員で行っている。学級全体から離れやすい児童を把握することができ、今後の学級経営に生かされている。 ・個人面談を通して、保護者との共通理解に努めると同時に、家庭状況の把握に努めている。	A	・「自分や友達をだいいにしてなかよく過ごすことができましたか。」「で、「できた」と回答した児童は、低学年で100%、高学年で94.8%であった。 ・「困ったことがあった時に、友達や先生に相談している」と回答した児童は、低学年で95.7%、高学年で74.4%であった。環境作りを推進していく必要がある。	A	・単学級の学校は、いじめ問題でこじれることが不安だが、早期発見、早期対応はよくなされている。 ・いじめがあったという報告があったが、早期対応しておられ安心しました。	
●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	●Q-Uテストの結果をもとに児童理解に努め、小さなことでも褒めたり認めたりする。 ●総合的な学習の時間で職業を調べなど、将来の夢や目標について考える時間をとる。	A	・毎週水曜日の「子どもを知る会」で、職員の共通理解を図り、児童理解や問題の早期発見、解決に努めている。 ・中学生の職場体験や実施予定の教育講演会「ようこそ先輩」を通して、近い将来を描く場面を設けている。	A	・Q-Uテストの結果をもとに全職員で研修会を行い、今までの児童への指導の振り返りを行うとともに、これからの具体的な取組について話し合いをした。 ・本校の卒業生を招き、児童及び保護者に話してもらった。児童は将来のことについて考えるきっかけとなり、身近な人から目標を持つことの大切さを聞き取るよい機会となった。	A	・様々な活動を通して素晴らしい体験を子ども達に提示されているのは素晴らしい。	
○ふるさと有田に愛着をもち、有田のよさを感じる児童の育成と教育活動の推進		○「有田町を好き。」と回答した児童を90%以上	○陶器市遠足や地域学習等、有田町などを実施し、有田町のよさや歴史を知ることできる機会を設ける。	A	・陶器市遠足、チロリン節総踊り、陶芸教室などを実施し、有田町のよさや歴史を知ることできる機会を作った。	B	・陶器市遠足、チロリン節総踊り、陶芸教室などを実施し、有田町を知るきっかけを作った。48.8%の保護者ができているという回答しており、更なる情報発信につとめる必要性を感じた。	A	・有田町に住んで生活している児童にとっては「当たり前」のことであっても、町外に出て初めて素晴らしいさやすごさが分かります。事ある毎に伝え、「有田っ子プライド」を育ててほしい。	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	●週に1度、昼休みにクラスで遊ぶ日を設定する。 ●休み時間や昼休みに、スポーツチャレンジや持久走、なわとびに取り組む。 ●昼休みに外遊びを奨励する。	A	・学年によっては、みんなで遊ぶ日を設け、外遊びにつなげていた。 ・これから、スポーツチャレンジや持久走、縄跳び等のスポーツを奨励していく。	A	・昼休みや2時間目休みに外で元気に遊ぶ児童は80%以上であった。「みんなで遊ぶ日」などの取組を強化していきたい。 ・体育科の授業を中心に運動への取組意識向上を行い、児童のボール運動や縄跳び運動への取組が増えてきている。	A	・スポーツや外遊びが苦手な児童もいるので、「毎日外遊び」ということは強制できませんが、週に1回でも「みんなで遊ぶ日(学級単位、縦割り単位)」設定していることは、とてもよいことです。	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○ゼロの日を水曜日に設定し、職員はもちろんのこと、児童の交通事故もゼロにする。	○1学期に交通安全教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ○登校班の確認、通学路の点検を防犯ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。	B	・交通安全教室や集団下校時に安全指導を行っている。児童・職員の交通事故は0である。 ・通学路の危険箇所などを職員自ら地域に出向き、確認した。	B	・季節や児童の日常生活の様子に応じた指導を適宜行った。児童自身の危機管理意識の向上とふれあい隊との連携を行い、児童の安全教育に努めていきたい。 ・火災避難訓練等での児童の取組は、その意図をしっかりと把握し、無言で素早い行動ができている。	A	・防犯ふれあい隊の皆さんの朝の見守り活動に感謝しかないです。 ・集団下校の時の上級生のリーダーシップは、うまくいっているでしょうか。 ・猛暑で先生達とても大変だと察します。	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○ICT活用の日常化を目指し、会議資料のペーパーレス化を行う。	●会議時間の縮減に努める。 ○システムで職員の時間外勤務を把握し、平日は、18時00分までに退勤するよう促す。 ○会議や配付資料のペーパーレス化をする。	A	・職員会議は、2ヶ月に1度計画されている。会議終了を16:20の目安はほぼ守れた。 ・職員の時間外勤務は月に約30時間未満で昨年よりやや減少している。	B	・会議の種類や回数は必要数に抑え、定時までに終わらせる時間設定を行いほぼ実施できたが、学級事務の時間の確保が十分でなかった。 ・時間外勤務は月に約27時間で年間あまり変わらない。一部の職員が18時以降の勤務になっている。業務改善の工夫の必要性を感じた。	A	・小規模校は、職員1人あたりの業務が多くなりがちであるが、職員みなさんで声をかけ合い力を合わせて「チーム有田小」として奮闘されていることに敬意を表します。 ・とても丁寧に朝から見守られていると思います。
○定時退勤日の設定		○定時退勤できたと思う職員を90%以上。	○定時退勤日(水曜)を設定し、定時に退勤するように呼びかける。	A	・各職員が、自分の業務に合わせて定時退勤を意識して行動できた。 ・金曜日を定時退勤を心がける職員が増えてきている。	A	・定時退勤日ができていると答えた職員は50%だった。水曜日の定時退勤は難しいが、各職員事情に合わせて退勤意識は各職員もっている。	A	・先生方お身体に気をつけて。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の推進	○全職員による共通理解と共通実践による組織的対応	○「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員90%以上。 ○毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。	A	・毎週水曜日「子どもを知る会」を実施し、児童支援の共通理解ができた。 ・スクールカウンセラーを講師に、発達障害の児童理解と対応の仕方を深める職員研修を実施した。	A	・「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員は90%だった。支援が必要な児童に対して、合理的配慮ができている。	A	・年々特別支援教育へのニーズが高まり、更に職員相互の共通理解や研修が重要になってきます。			
○地域と連携した教育活動の推進	◎地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上。	A	・やきもの教室やクラブ活動の指導、大掃除の手伝い等、地域の人材を活かした活動ができている。	A	・「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と答えた保護者は66.6%だった。やきもの、音楽、掃除、読み聞かせ、福祉など地域人材の力を活かした教育を更に推進していきたい。	A	・学校運営協議会がとても機能していると思います。できれば、委員さんの中に20代～30代位の若い方がさらに入られると新しい取組がうまれるのではないかと思います。			
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち着いて生活できる静かな環境づくり ○ノーマメディアデーの周知、充実のため家庭と連携を図る。	○「あいさつ、静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が80%以上。 ○ノーマメディアデーの実施率を90以上。	B	・地域でのあいさつには、これからも継続して指導していく必要がある。 ・全校朝会や、集団下校時に継続して安全指導を続けている。有田っ子プライドに全クラスで取り組んでいる。	A	・「無言掃除ができた」と答えた児童は低学年95.6%、高学年92.3%だった。高学年の意識が高まってきた。 ・「気持ちの良いあいさつができた」と答えた児童は低学年93.5%、高学年97.4%で、高学年を中心にあいさつを意識して行う児童が増えている。	A	・できればその子の得意な事を気付けあげ、その事をきっかけとして成長そてくれる事を願います。			

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。次年度も児童の知・徳・体の更なる向上を目指していく。 ・PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいてこれからの課題をいただいた。来年度は、保護者への周知に力を入れていく。 ・個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、全職員が研究授業研究会に関わり、研究主任を中心に校内研究を通して授業のスキルアップに努める。
----------------	--